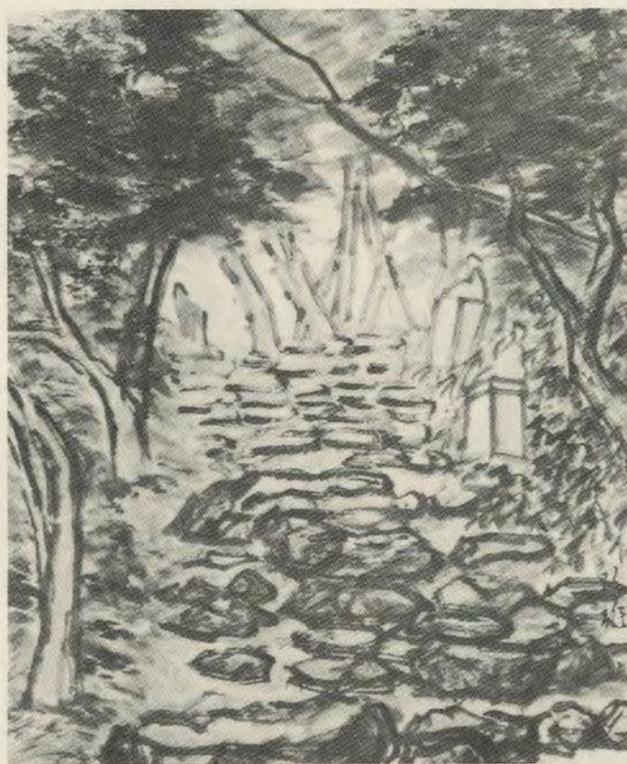


# 光市医師会報

昭和56年2月発行

101号



阿弥陀寺への道

近藤 竜 一先生

光市医師会

# 医師会月間行事

## ◎定例理事会

1月13日(火) 7・00PM

光井 天一

## ○報告事項

- 1. 山口県の最低賃金の改定について  
資料は各会員に配布済
- 2. 健康保険法の改定 3月1日から
- 3. 山口銀行の貸付利率の変更について  
12月15日付をもって以下の通り変更
  - a、短期融資  
8%が7.25%
  - b、長期融資  
8.3%が7.55%
- 4. 山口県の成人病予防週間の実施  
2月1日より実施  
光市医師会としては、具体的実施事項は計画していない。
- 5. 忘年会の寄付  
共同募金へ32000円を寄付  
感謝状を受領す。
- 6. 来年度校医手当、予防接種等出務手当解答は未
- 7. 4月3日半期会計報告

## ○協議事項

- 1. 市立病院の増改築の件について  
中国新聞、山口新聞紙上に発表された市立病院増改築計画の記事を中心として、現在までの経緯について説明、尚救急医療、地域医療を中心とする医療のシステムについて若干の意見表明があった。  
光和病院の件については、具体的新情報は現在の所不明であるとの報告があった。

- 2. 学校保健研修会の実施計画について  
学校保健担当 福本副会長より
  - a、各学校並びに医師会宛の広報
  - b、当日の進行と役務割当
  - c、実施に伴う予算等について説明
- 3. 新年互礼会計画討議決定

## ◎臨時理事会

1月20日(火) 7・30PM

光市医師会館

出席者 大野 福本 松村 富恵 竹中  
亀田 守友 伊藤

議題 光市立病院の増改築に伴う総合病院化(産婦人科、眼科増設)マスタープランについて、光市立病院事務局長の説明を求める件

## 議事

光市立病院小山事務局長の説明要旨  
目的 基本方針は、市民の医療について地域中核病院として、特に救急医療、リハビリテーション、人間ドック、老人医療の機能を充実した総合病院化を図り、市民の健康管理と疾病の予防面において積極的に対応していきたい。総合病院の形態をとる為には産婦人科、眼科を増設したい。産婦人科については、議会、住民の希望の意見として要望が強い。

病床数が不足して現在救急を受けがたい状況にあり、尚病院の老朽化が甚しいので此の点からも改築して総合病院化したい。

市長よりの指摘として、長期的見地に立って老慮し、特徴ある病院であるべきである。尚開業医療機関の職域を荒らさないことが必要である旨の注意をうけている。

以上により医師会の御協力と御協議を経て計画を進めたい。

本マスタープランについては、昭和55年12月24日市議員の全員協議会において説明し、予算規模も大きいのでプロジェクトチームを作り特別委員会が編成され審議されることになる。理事会よりの質問

質問 人口1万対診療科別医師数の光市医師会の科別医師数の出し方が間違っている。

産婦人科は2となっているが、医師数は3である、公式文書として数の間違いのまま発表したことは問題である。

答 病院としてもこの表には問題のある事は認識しておる。訂正する。

質問 産婦人科の問題だが、出生数は年々可成りの減少を示している。昭和54年11月より55年10月までの光市民の出生数は616名で、竹中医院と梅田病院での出生数を合すると623名であって光市民の出生数より多く扱っている。出生数の減少の傾向は強いので、光市の出生数は1ヶ月30人位まで減るのではないか。従って産婦人科の増設は実情に合わない。吾々の経営にも大きな問題を生じる。

答 助産施設など産婦人科を含む総合病院化がしばしば要望に出る。

質問、意見

(1) 人間ドック実施計画があるが、現在なぜできないのか、徳山、広島等では実施されている。

(2) 現在開業医がメスをふるうことが少ないが、開業医で出来ない様な手術の問題を解決できるか。

(3) 二次病院としての十分な機能を発揮できることが必要である。

(4) 外来と入院の受け入れ方にも問題がある。主治医を主体とした開業医と

病院の十分な連携が必要である。例えば医師会病院的な本質に近いオープンシステム的な事も考えるべきである。

(5) 開業医に毛の生えたような病院では駄目である。充実した立派な病院になる事をあえて反対するものではないが。

(6) 儲け主義で、開業医圧迫になるような事には反対である。

入院患者の質の受け入れ方(市立病院を避けて他病院へ行く)にも問題がある。

(7) 開業医では出来ない高度の技術を有する病院でなければならぬのが中核病院の本質ではないか。

(8) 入院等依頼した患者を紹介した開業医療機関に返さないことは問題である。

(9) 開業医の経営も重要なことなので、開業医との連携を密接にして、真の機能を発揮しうる二次病院でなければならない。

答 ごもっともな御意見で、充分注意して御要望にそうようにすべきものと考える。

質問 方針の中に保健センター的業務があるがどのような業務内容か。

答 依頼した設計、計画者のプランで、現在オーソライズされた決定的なものではなく、実際には出来ないと考える。

追記

1. 現在の150床を200床とし、50床の増加となるが、実質的可動率は90%と考えている。従って20床をあけておく。

2. 資金は最高25億円におさえない。

負担割合は 一般会計 ⅔

市立病院 ⅓

3. 予定 56年度設計

57年度58年度建設

59年度4月より開始

◎救急医療研修会及び1月度例会

1月27日(火) 7・00PM

光市医師会館

○救急医療研修会

「救急心蘇生」救急の医療処置について  
テレビ映画を供覧して知識の向上に努めた。

○月例会

1. 公正取引委員会の調査について
2. 周南地域救急医療対策協議会の開催出席について
3. 学校保健研修会の開催について
4. B型肝炎医療機関内感染対策ガイドライン回覧について
5. 市立病院総合病院化プランの経緯について

大野会長談話要旨

1月11日(日)の中国新聞に光市立病院の増改築に伴う総合病院化(産婦人科、眼科増設)計画が発表された。1月13日市立病院事務局長に会長宅に来宅を求め種々説明を求めた。11月市立病院長より50床増床したい旨の申出があった。会長として同意した。この事についてプランの説明も求めず独断で同意したこと及びこのことが市議会全員協議会において増改築プランの発表の動機になった点もあるので深く責任を感じる。

本計画は医師会員にとって種々意見及び影響もあるので、1月20日臨事理事会を開催して市立病院事務局長の出席を求め説明を聞き各理事より種々質疑質問があった。

此のプランは昭和55年4月より計画を始め6ヶ月を要している。市議会

全員協議会において説明後、1月の議会において特別委員会が編成され審議されることになる。

1月24日 竹中、中村国、福本、梅田、伊藤諸先生の参集を求め会長宅において種々意見をきいた。

増改築による総合病院化の目的は、資料に記載の通りである。今後は医師会と協議し充分意見をきくことを約束してある。市長及び特別委員会の委員長とも会合、意見を述べる積りである。

会員の御意見をアンケート方式でまとめ、更に理事会で検討したい所存である。本日は結論を出す事を致しませんが、皆様の卒直な御意見をいただき今後の参考にしたい。

○こん親会

本年最初の会合なので、簡単なこん親会を開催する。

## あとがき

広報担当と云うと各郡市医師会からそれぞれの会報が送られてきます。大きい医師会はそれなりに厚い立派なのが、小さい郡市の医師会も大変立派な会報を届けてくれますと、今の光の医師会報がこれでもいいのかと、さびしく思うと同時に申し訳なく反省しております。次号からは編集委員の方々に手伝ってもらってもうすこしましな形に努力していきたいと考えております。御協力御指導をお願い申し上げます。

表紙の近藤先生の水墨画は昨年秋の第五回防長水墨画壇展で大賞をとられたもので、淡彩の詩情あふれる作品です。

発行所	光市医師会
	TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
	光市御崎町
印刷所	中村印刷株式会社